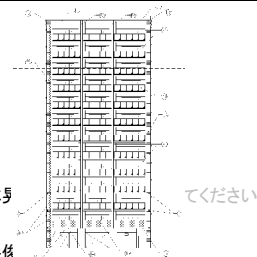


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アーピング荒本駅前通りⅡ	階数	地上13F
建設地	大阪府東大阪市荒本新町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	126 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年9月1日
敷地面積	569 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社アモルファス建築設計事務所 藤本 勇
建築面積	262 m <sup>2</sup>	確認日	2021年9月1日
延床面積	2,601 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社アモルファス建築設計事務所 笠井 佑



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.1</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.7</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.3</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 2.9</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 2.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 2.9</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>室内の空気質環境の向上や、躯体の高寿命化にも配慮し、建物内外の環境に配慮した計画とした。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>内装材にF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用し、室内の空気環境の向上に努めている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>品確法「劣化等級」における等級3を取得する躯体材料を計画するなど、建物を長く使える配慮をしている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外構に適切に緑地を計画するなどして、敷地内の室外環境を向上させるように配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明を採用するなどして、エネルギー抑制に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体と仕上材が容易に分別できるように計画するなど、部材の再利用可能性向上に努めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率を抑制することで、敷地外の環境に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)アービング荒本駅前通りⅡ 新築工事
--------	------	-----------------------

	建設地	大阪府東大阪市荒本新町
--	-----	-------------

	用途/区分	集合住宅
--	-------	------

【評価結果】	CASBEE 総合評価		<b>B+</b>
--------	----------------	--	-----------

①	CO2削減		<b>3</b>
---	-------	--	----------

②	みどり・ヒート アイランド対策		<b>2</b>
---	--------------------	--	----------

③	建物の断熱性		<b>4</b>
---	--------	--	----------

④	エネルギー削減		<b>2</b>
---	---------	--	----------

⑤	自然エネルギー直接利用		<b>○</b>
---	-------------	--	----------

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—	—
	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—	—

エネルギー消費量の報告		対象外
-------------	--	-----

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.4	<b>3</b>
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	<b>2</b>
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	<b>4</b>
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.4	<b>2</b>
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	<b>○</b>
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		